

2022年7月29日

株式会社ロイヤリティ マーケティング

With コロナにおける国内・海外旅行の需要を調査**2022年内の旅行意向は70%以上****行き先は国内旅行が多く、海外旅行はまだ需要回復の兆しは見られず**

共通ポイントサービス「Ponta (ポンタ)」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング(本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：長谷川 剛、以下「LM」)は、コロナ禍の国内外の旅行に関する需要を聴取した「旅行に関する調査」(実施期間：2022年6月8日～6月17日)の結果をご報告いたします。

【調査結果】

・TOPICS 1

今年の夏は34%が旅行予定があると回答しており、「近距離旅行」の需要がうかがえる

・TOPICS 2

年内の旅行意向は71%。旅行先は国内旅行が多く、海外旅行はまだ需要回復の兆しは見られず

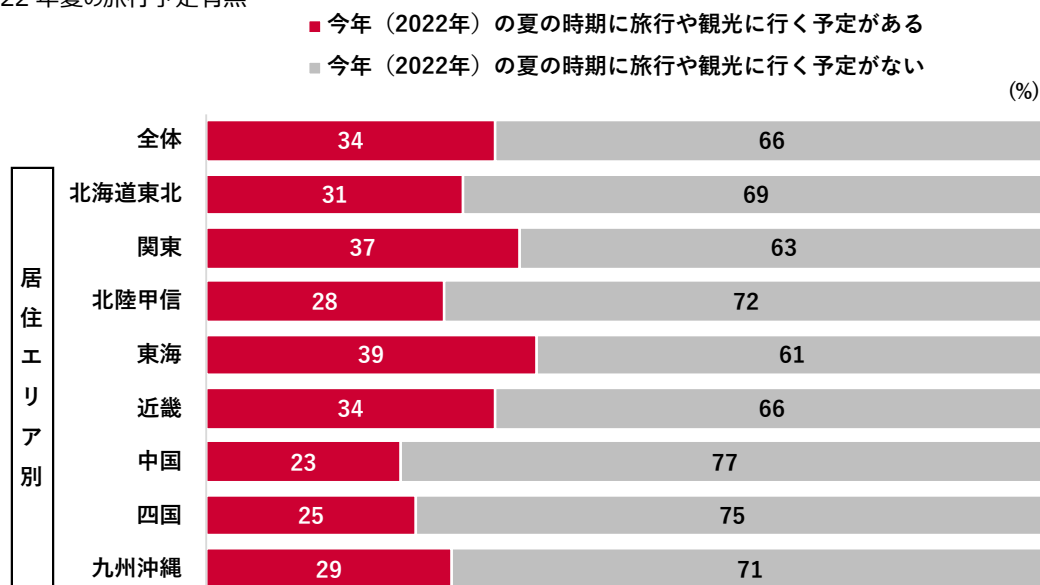
【調査結果詳細】

■TOPICS 1

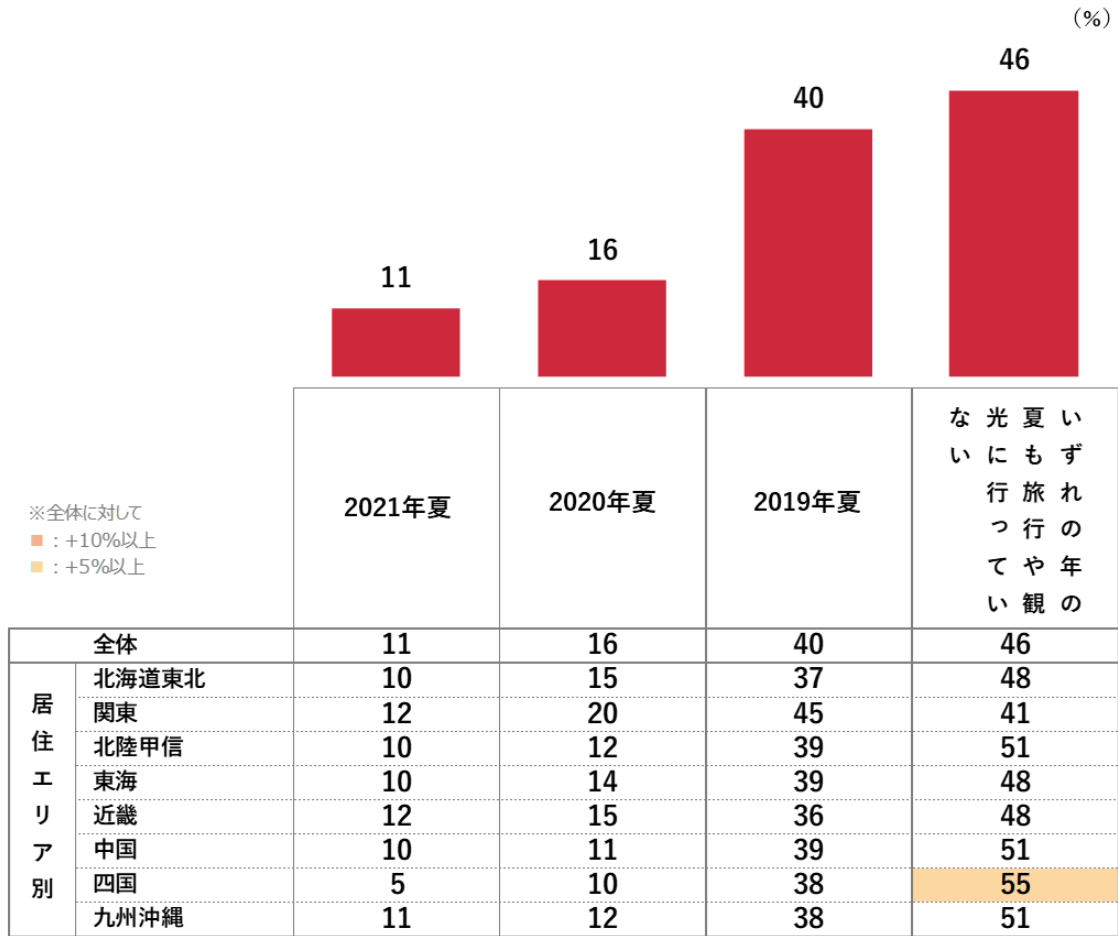
今年の夏は34%が旅行予定があると回答しており、「近距離旅行」の需要がうかがえる

2022年夏の時期に旅行や観光の予定があると回答したのは34%だった。居住エリア別にみると、関東地方東海地方に居住している方に旅行予定が多く、中国地方四国地方にお住まいの方は少ない結果となった。また、旅行先は全体で「関東(20%)」が最も高く、次いで「北海道東北(18%)」「九州沖縄(17%)」が続く。いずれも旅行先と居住エリアが同じ方が多かった。コロナショック以降の2020年、2021年と比べて需要は回復しており、「近距離旅行」の割合が多かった。

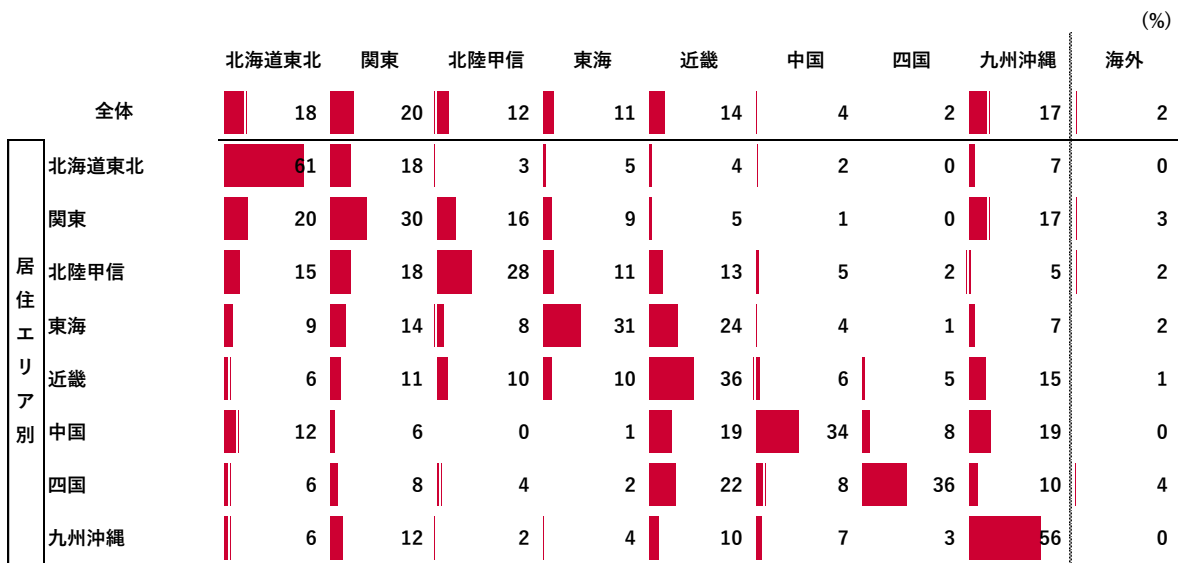
▼2022年夏の旅行予定有無



▼2019年から2021年の夏の旅行経験（2021年8月調査）



▼2022年夏の旅行場所



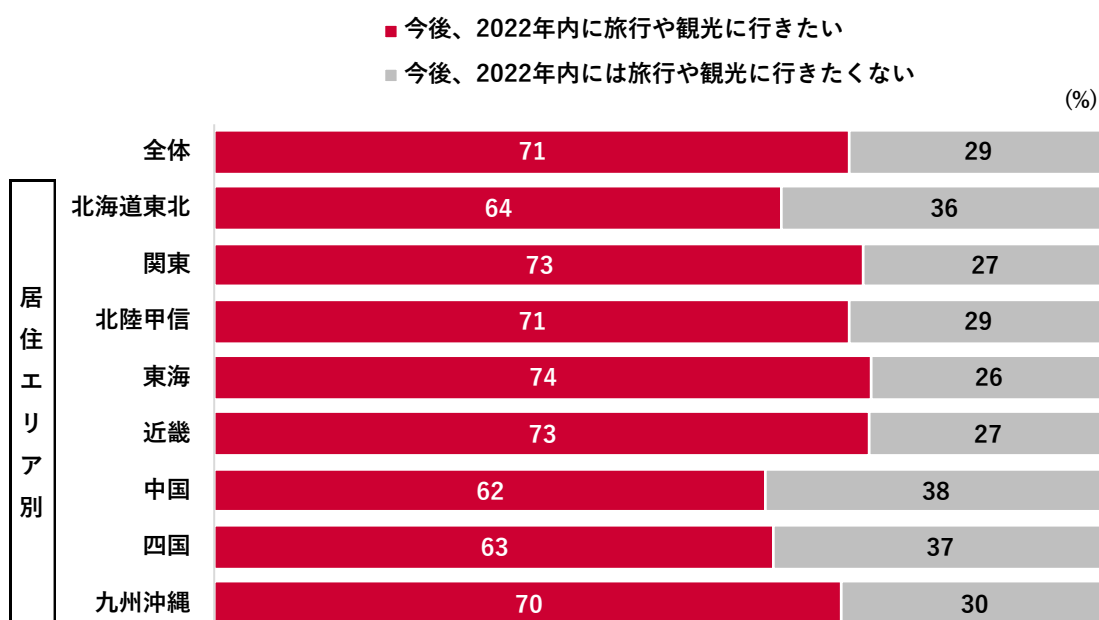
■TOPICS 2

年内の旅行意向は71%。旅行先は国内旅行が多く、海外旅行はまだ需要回復の兆しは見られず

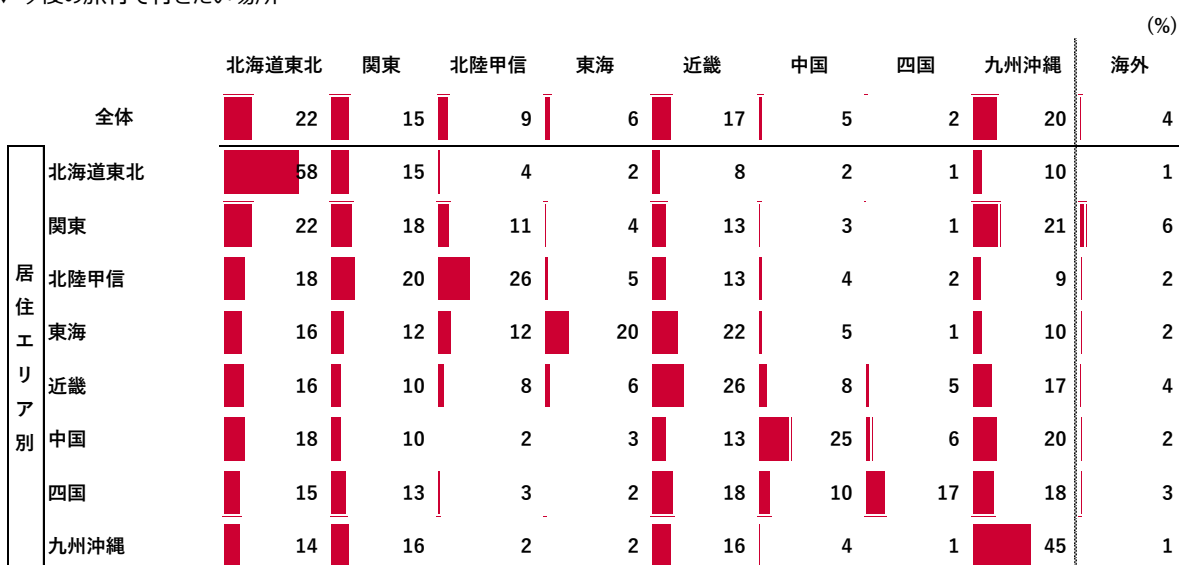
今後、2022年内に旅行や観光に行きたいと回答したのは、全体で71%。旅行先は「北海道東北（22%）」が最も高く、「九州沖縄（20%）」「近畿（17%）」が続く。2022年夏の旅行と比べて、旅行先と居住エリアが同じ割合は減少し、異なるエリアを選ぶ割合が増加しており、「遠距離旅行」の需要の高まりがうかがえる。一方、「海外」と回答した人は、全体で4%に留まった。

近年の海外旅行の有無を見ると、海外旅行に行った人は、コロナ前の2019年は15%だったのに対して、2020年は5%、2021年は3%と大きく低下。2022年も3%と低調な結果となった。国内での旅行意向がうかがえるものの、海外旅行においてはまだ需要回復の兆しは見られなかった。

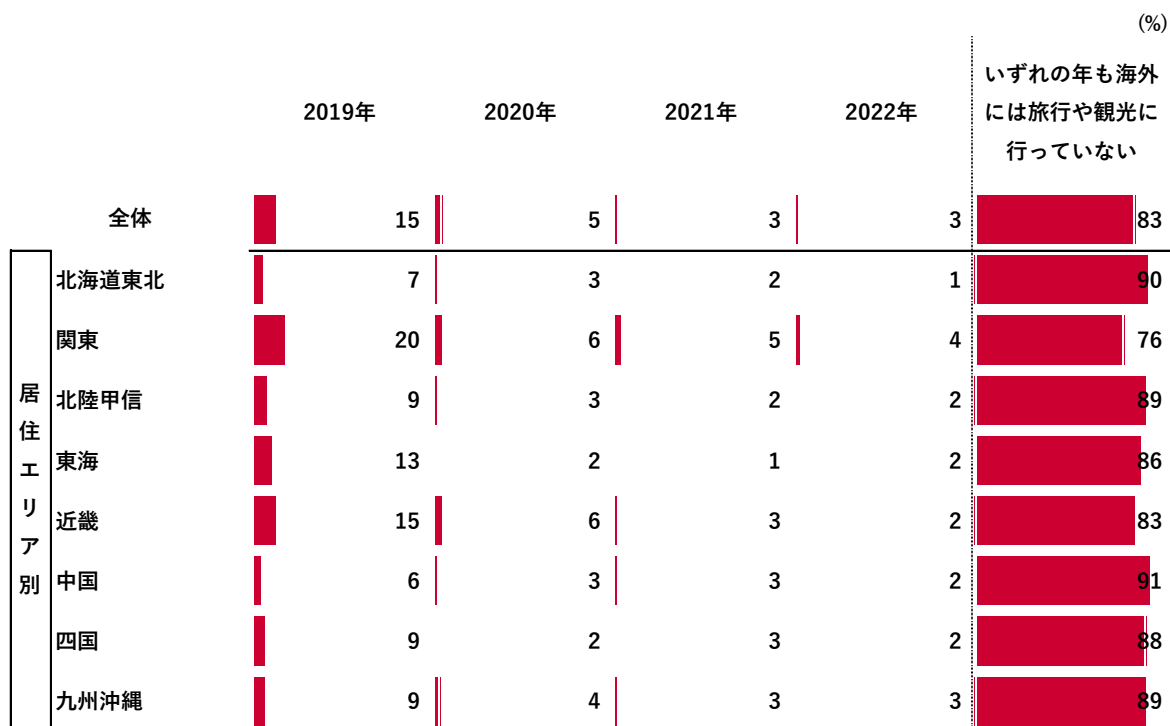
▼今後の旅行に関する意向



▼今後の旅行で行きたい場所



▼近年の海外旅行有無



以上

【調査概要】

- 調査方法 : インターネット調査
 調査期間 : 2022年6月8日～6月17日
 パネル : 「Ponta リサーチ」会員
 (Ponta 会員で「Ponta リサーチ」の会員登録をいただいている方)
 調査対象 : 国内在住 20 歳以上の方
 有効回答数 : 4,700 名 ※各都道府県ごとに 100 サンプル回収

【引用・転載の際のクレジット表記のお願い】

調査結果引用・転載の際は、“「ロイヤリティ マーケティング」調べ”とクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

【追加レポートにつきまして】

マーケティング施策立案にお役立ていただける、より詳細な追加分析レポートをご希望の方は、株式会社ロイヤリティ マーケティング ビジネスデザイン部リサーチ担当部局までお問い合わせください。

lm-sales-research@loyalty.co.jp

■関連 URL

株式会社ロイヤリティ マーケティング マーケティング詳細紹介サイト：<https://biz.loyalty.co.jp/>

公開レポート（自主調査結果を掲載）：<https://biz.loyalty.co.jp/report/>

公開データ：<https://biz.loyalty.co.jp/lp/publicdata/>

コラム：<https://biz.loyalty.co.jp/column/>

※報道関係者の方は、メディア関係者限定公開のお問い合わせ先
広報部にご連絡をお願い申し上げます。